

基政発 0807 第 1 号
基監発 0807 第 2 号
国自貨第 30 号
令和 2 年 8 月 7 日

都道府県労働局労働基準部監督課長 殿
各運輸局自動車交通部長等 殿

厚生労働省労働基準局労働条件政策課長
厚生労働省労働基準局監督課長
国土交通省自動車局貨物課長
(公印省略)

令和 2 年度の「トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会」
の実施事項について

平成 27 年度から中央及び各都道府県に設置している「トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会」(中央に設置している協議会を「中央協議会」、都道府県に設置している協議会を「地方協議会」という。以下同じ。)では、平成 28 年度から平成 29 年度まで 2 か年にわたりパイロット事業(実証実験)を実施し、荷待ち時間や荷役作業の削減等の取組を行い、これにより得られた成果を活用して「荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン」を策定した。また、平成 30 年度には「コンサルティング事業」を実施し、パイロット事業の結果等から新たに把握された課題の改善や、これまでの取組のさらなる深掘りに取り組んだ。さらに、令和元年度の「アドバンス事業」では荷待ち件数が特に多い輸送分野(加工食品、建設資材、紙・パルプ)等において、輸送品目ごとの課題整理や改善策の検証を実施し、サプライチェーン全体での課題解決に取り組んだところである。

今後、「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」に基づき、自動車運転の業務について令和 6 年度から時間外労働の上限規制が適用されることを踏まえ、自動車運転者の長時間労働の改善と生産性向上の取組を荷主と連携して更に加速させていく必要がある。これまでの中央協議会や地方協議会で取り上げられた課題について、トラック運送事業者、荷主、行政等の関係者が一丸となって、解決に向けて取り組んでいくことが重要である。

については、今年度の地方協議会において重点的に取り組む事項、関係省庁との連携を強化して取り組む必要がある事項について、下記のとおり通知するので、必要な対応をされたい。

1 今年度の重点取組事項について

(1) 今年度の輸送分野別の検討について

① 対象輸送分野

各地方協議会事務局（運輸支局、都道府県労働局及び都道府県トラック協会をいう。以下同じ。）は、これまでの地方協議会での課題整理や過去の実証事業（パイロット事業、コンサルティング事業、アドバンス事業）を通じて浮き彫りとなった課題、輸送分野ごとに顕在化している課題等に対し、1つ以上の輸送分野における課題の整理及び課題に対する改善策の活用等を検討すること。検討の対象とする輸送分野（以下「対象輸送分野」という。）は、各地方の状況に応じ、次の（ア）～（エ）のいずれかより選定すること。なお、下記3（1）の実証事業の実施地域を所管する地方協議会は「飲料・酒」を、3（2）の取組の指定があった地方協議会は「生鮮食品（品目は「生乳」に限る。）」を選定すること。

（ア）令和元年度に実施した待機時間・附帯作業に関する調査の都道府県別の結果に基づき、各都道府県における待機時間が特に長い輸送分野（別添資料参照）

（イ）過去の実証事業のフォローアップを実施する必要があると考えられる輸送分野

（ウ）昨年度地方協議会で取り組んだ「加工食品」、「建設資材」及び「紙・パルプ」の中で、各輸送品目別のガイドライン（※）で示した『今後の取組みの方向性』に沿って取組を行う輸送分野

（エ）今年度新たに取り組む「飲料・酒」又は「生鮮食品」の輸送分野

※ 本年5月策定「荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン 加工食品物流編」、「同 建設資材物流編」、「同 紙・パルプ（洋紙・板紙分野）物流編」、「同 紙・パルプ（家庭紙分野）物流編」

② 対象輸送分野の関係者の参画について

i) これまでの地方協議会において議論された課題について、運送事業者と荷主による取組を加速化させるとともに、過去の実証事業等を通じて浮き彫りとなった対象輸送分野における課題の解決に向けた取組についての検討が効果的なものとなるよう、荷主との更なる連携強化を図っていく必要がある。

そこで、各地方協議会事務局は、対象輸送分野の発・着荷主を含むサプライチェーン全体の関係者はもとより、地方協議会に現在参画していない荷主企業所管省庁の地方支分部局や荷主団体等について、地方協議会への参画を積極的に働きかけること。

なお、中央（厚生労働省本省及び国土交通省本省をいう。）においても経済産業省や農林水産省と連携し、各地方協議会に荷主企業所管省庁の地方支分部局や荷主団体等が参画するよう働きかけることとする。

ii) 地方協議会事務局からの働きかけに当たっては、各地方において課題の多い輸送分野の関係者や影響力の大きい荷主等を中心に、トラック運送事業における長時間労働の実態や荷主等との連携の必要性を丁寧に説明したうえで、地方協議会への参画を打診すること。

iii) 各地方協議会事務局は、地方協議会委員の所属する団体の会員事業者や地方協議会に参画する関係者等に対するヒアリングを通じて、荷主と運送事業者の実取引における実態や未解決の課題についての把握・整理を行うこと。特に、荷主と運送事業者の連携によって課題解決が図られた好事例があるか、あるいは、荷主と運送事業者が連携できていない場合にどのような課題があるかについて、重点的にヒアリングを行うこと。

③ 対象輸送分野の報告

各地方協議会事務局は、それぞれ各地方協議会事務局を管轄する地方運輸局等に、選定した輸送分野を報告すること。各地方運輸局貨物課等は本年9月30日(水)までに各地方協議会の対象輸送分野について取りまとめたうえで、自動車局貨物課まで報告すること。

④ 対象輸送分野と実証事業の関係について

下記(2)の実証事業を実施しようとする地方協議会は、当該実証事業に関わる輸送分野を対象輸送分野として選定すること(そのうえで他の輸送分野も検討の対象とすることは差し支えない)。

また、下記(2)の実証事業を実施しない地方協議会については、対象輸送分野に係る過去の実証事業や下記(2)の実証事業等を参考に改善策を検討すること。

(2) 新たな実証事業について

① 実証事業の実施に向けた調整

本年1月に実施した令和2年度実証事業の実施希望調査において、実証事業の実施を希望した各地方協議会事務局(該当する地方協議会を管轄する地方運輸局等には国土交通省本省から別途連絡する。)は、これまでの地方協議会での課題整理や過去の実証事業を通じて浮き彫りとなった課題、輸送分野ごとに顕在化している課題等に対し、荷主や運送事業者と協同して、各地方の状況に応じた課題解決の方策に向けた実証事業を実施すること。

実証事業の対象集団の選定に当たっては、実施地域におけるサプライチェーンに関係する発・着荷主、元請運送事業者及び下請運送事業者等、実証事業の実施に必要な関係者を選定することとし、特に、着荷主が参画するように努めること。

年度当初に「自動車運送事業市場環境整備推進調査費」を配賦された地方運輸局等においては、コンサルティング業務を受託する事業者(以下「受託業者」という。)との契約など必要な調整を進めること。

実証事業の実施を希望する各地方協議会事務局は、事業の実施を希望する対象集団、実施地域、実施内容、実施希望時期の調整結果を地方協議会に諮ったうえで、各地方協議会事務局を管轄する地方運輸局等に報告すること。

地方運輸局等は本年9月30日(水)までに各地方協議会で実施する実証事業について取りまとめたうえで、自動車局貨物課まで報告すること。

② 実証事業の検討体制

実証事業を実施する地方協議会を管轄する地方運輸局等は、上記①の自動車局貨物課への報告を完了させたうえで、適切な方法により受託業者と契約すること。

各地方協議会事務局は、対象集団を構成する事業者及び受託業者等と連携を密にして、問題点の把握や改善方法の検討・提案等を行うこと。また、地方協議会は対象集団に対して、トラック運転者の長時間労働の改善に向けて、荷主や運送事業者の生産性向上や取引適正化が図られるよう必要な助言等を行うこと。

③ 実証事業の実施内容

実証事業の実施内容は、これまでの地方協議会での課題整理や過去の実証事業を通じて浮き彫りとなった課題、輸送分野ごとに顕在化している課題等について、サプライチェーン全体で課題解決に取り組むもの、地域特有の輸送品目や課題が顕在化している輸送品目に関して取り組むもの、影響力の大きい荷主と連携して課題解決に取り組むべきものに区分して実施内容を調整することが望ましい。

また、受託業者が改善策を提示する際には、当該改善策の実現可能性やその実現のための所要期間、費用対効果の見込みについても提示させることで、荷主と運送事業者の費用負担面や労務負担面も考慮した取引環境の適正化等を促すものとする。

④ 実証事業の公表・展開策

実証事業の取組内容は、地方協議会で共有し公表する予定であることについて、参画する荷主や運送事業者の了解を必ず得ること。なお、公表に当たっては、匿名としても差し支えない。

また、実証事業において得られた知見については、実証事業の概要として「荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン事例集」への追加掲載を予定しているが、地方協議会においても、実証事業の対象集団以外の者への改善策の共有・展開について、効果的な方策を検討すること。

2 重点取組事項のPDCAについて

上記1（1）、（2）の今年度の重点取組事項が、令和6年度から適用される時間外労働の上限規制に向けて効果的な取組となるよう、各地方運輸局等は管轄する各地方協議会の取組について、別添様式を用いてPDCAサイクルによる継続的な改善を行うこと。地方運輸局等は取りまとめた別添様式を令和3年4月末日までに自動車局貨物課に報告すること。

3 国土交通省本省の輸送品目別の取組との連携について

（1）飲料・酒

「飲料・酒」については、有識者、サプライチェーンの関係者が参画する会議体を立ち上げ、その中で課題の把握、実証事業の実施、課題解決方策の検討等を行うこととしている。この会議体は、実証事業を実施する地域を所管する地方協議会を活用

することとし、自動車局貨物課と当該地方協議会を運営する運輸支局等が共同事務局となって取り組むこととする。なお、会議体への「飲料・酒」物流に係る関係者の参画調整及び実証事業の対象集団の決定については自動車局貨物課が主体的に取り組むこととし、会議体に係る費用及び実証事業に係る費用については国土交通省の本省予算を活用する。

(2) 生鮮食品

「生鮮食品」については、農林水産省主催の「食品流通合理化検討会」の取組を勘案しつつ、国土交通省単独の取組として、荷待ち時間調査の結果、生鮮食品の中で最も荷待ち件数が多かった「生乳」を対象とする。

「生乳」に係る取組地域は、国土交通省本省においてヒアリング等を実施のうえで絞り込むことを考えており、その結果を踏まえて取組を行う地方協議会を国土交通省本省から指定する。指定された地方協議会は、国土交通省本省とも連携しつつ、「生乳」に係る課題の把握、実証事業の実施、課題解決方策の検討を行うこととする。なお、実証事業に係る費用については国土交通省の本省予算を活用する。

4 トラック運送事業者に対する労働時間等説明会について

今年度も、トラック運送事業者に対する改正労働基準法等の内容を含む労働時間に関する法制度等の周知や理解の促進に向けて、労働基準監督署において労働時間等説明会を開催することとしているので、説明会の内容や進め方等について地方協議会の場を活用する等により、必要な意見交換を行うこと。なお、意見交換については、都道府県労働局が主体となって行うこととする。

5 周知事項について

(1) 新型コロナウイルス関連

未曾有の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中で、エッセンシャルワーカーとして物流を支えている運送事業者に対して赤羽国土交通大臣のメッセージを紹介するなど謝意を表明するとともに、全日本トラック協会が作成した「トラックにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」や雇用調整助成金をはじめとした各種支援メニューについて周知を行うこと。

(2) 標準的な運賃

「標準的な運賃」の告示(※)を契機として荷主と運送事業者の「取引の適正化」を図るためには、運送事業者が「標準的な運賃」の趣旨を理解するだけでなく、荷主をはじめとした物流に携わる者においても、ドライバーの人件費をはじめ、法令を遵守して持続的に運送事業を行っていくうえで必要となるコスト等のあり方について、理解を得ることが不可欠であることから、「標準的な運賃」について地方協議会の場においても地域の荷主や運送事業者等に対する積極的な周知を行うこと。

※ 一般貨物自動車運送事業に係る標準的な運賃を定めた件（令和2年国土交通省告示第575号）

(3) 「ホワイト物流」推進運動

「ホワイト物流」推進運動については、本運動をさらに推進し、より多くの企業に、とくに各地方において影響力の大きい荷主企業に本運動へ参画いただけるよう、引き続き地方協議会の場においても地域の荷主や運送事業者等に対する積極的な周知及び参画の呼びかけを行うこと。

また、国土交通省が「『ホワイト物流』推進運動ポータルサイト」(<https://white-logistics-movement.jp/>) を開設していることについて引き続き周知を行うこと。

(4) 「加工食品」「建設資材」「紙・パルプ」物流ガイドライン

加工食品、建設資材、紙・パルプの各輸送品目別にとりまとめられたガイドラインについては、厚生労働省・農林水産省・経済産業省・国土交通省の各本省の担当課室の連名で関係する業界団体に対して本年6月に周知の依頼を行ったところであるが、地方協議会においても、地方協議会の委員や各輸送品目に係る業界団体等を通じた周知・浸透を図ること。なお、ガイドラインにおいては、輸送品目ごとに示している課題や改善策が異なるため、関係者への周知に当たっては、効果的に情報提供するよう留意すること。

なお、国土交通省本省においては、「ホワイト物流」推進運動の更なる周知や、運動に参画する企業・運送事業者の取組事例の紹介等を行うためのセミナーを今年度も開催する予定であり、当該セミナー等を活用し、ガイドラインの周知を図っていくこととしている旨申し添える。

(5) 運転者職場環境良好度認証制度（働きやすい職場認証制度）

今秋に開始予定としている本制度について、制度の認証実施団体である一般財団法人日本海事協会が情報提供のためにウェブサイト (<https://www.untenshashokuba.jp/>) を開設しているところであり、多くのトラック運送事業者に申請していただけるよう、地方協議会の場においても本制度について積極的な周知を行うこと。

(6) トラック運転者の長時間労働改善に向けたポータルサイト

厚生労働省において、荷主・運送事業者・国民向けに、昨年9月に「トラック運転者の長時間労働改善に向けたポータルサイト」(<https://driver-roudou-jikan.mhlw.go.jp/>) を開設したところであり、地方協議会の場においても地域の荷主や運送事業者等に対する積極的な周知を行うこと。

トラック輸送における取引環境・労働時間改善 山形県協議会令和2年度の実施について



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

山形労働局



国土交通省

東北運輸局山形運輸支局



公益社団法人山形県トラック協会

山形県協議会における令和2年度の重点取組事項について

1. 令和2年度に取り組む対象輸送分野の選定について

- 令和2年度に各地方協議会で取り組む対象輸送分野
 - (1) 過去の実証事業のフォローアップを実施する必要がある輸送分野等
 - (2) 中央協議会が実施した荷待ち時間の実態調査において、荷待ち時間が生じた件数が多かった「加工食品、建設資材、紙・パルプ、飲料・酒、生鮮食品」の輸送分野（P3参照）
- 各地方協議会において、上記の中から1つ以上の輸送分野を選定。その輸送分野における課題の整理、課題に対する改善策の活用等を検討する。**
- 【選定理由】 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、トラック輸送においても増加・減少している品目がある。消費者が自宅で過ごす、食事をする機会が増加傾向にあり、未だ終息が見えない中、今後もスーパーマーケット等における加工食品の需要が多く見込まれることから、**山形県協議会においては、「加工食品」を対象輸送分野として取り組むこととしたい。**
- 今年度の重点取組事項が、令和6年度から適用される時間外労働の上限規制に向けて効果的な取組となるよう、PDCAサイクルによる継続的な改善を行う。（P4参照）

2. 令和2年度において検討の対象とする輸送分野

対象輸送分野 : 加工食品
取組事項 : 加工食品の輸送に係る労働環境の改善について

3. 課題の改善のための取組の概要

- 【令和2年度】
- (1) 第11回山形県協議会において「加工食品」に取り組むことので了承 . . . 【P】
 - (2) 各種説明会等でガイドラインの周知 . . . 【D】
 - (3) 加工食品運送事業運転者（女性・若年層）に満足度（アンケート）調査を実施 . . . 【D】
- 【令和3年度以降】
- (4) 第12回山形県協議会において、令和2年度の取り組みを報告 . . . 【C】
 - (5) 満足度向上のための取り組みの検討、継続して説明会等の実施によるガイドラインの周知 . . . 【A】

4. KPIの設定について(着眼点)

[1]ガイドライン(加工食品物流編)の浸透

【運送事業者・荷主が参加する各種説明会等でガイドラインの周知を図る 年間3回】

- ・「ガイドライン」が策定されたことを、まずは荷主企業・運送事業者に認知していただきたい。
- ・さらに、「ガイドライン」で掲げられている現状・課題、解決の方向性・具体的な解決方策を荷主企業・運送事業者に認識していただきたい。
- ・荷主企業と運送事業者が同一認識のもと、労働時間を如何に短縮できるかを話し合える下地づくりをしたい。
- ・荷主企業と運送事業者が最終的に「WIN・WIN」となる関係が構築されることを期待。



- ・令和元年度に実施した「荷主懇談会」を踏襲したスキームによる説明会の開催。
(幅広く周知を図るため、県内3地区(最上村山地域、置賜地域、庄内地域)で1回ずつでの実施を基本とする。)

[2]若年層・女性ドライバーの労働環境の満足度

【加工食品物流に携わる新規採用若年層(10代・20代)・女性ドライバーの労働環境満足度 年間〇%向上】

- ・労働環境の満足度把握のため、加工食品運送事業者に対してアンケート調査を実施。



(アンケート項目(案))

- ・基本情報の項目:性別、年代、勤続年数
- ・仕事に関する項目:仕事の難易度の納得感、仕事のおもしろさ、やりがい、組織への存在意義、裁量権
- ・人事制度・処遇に関する項目:評価、処遇、教育・研修制度、給料、福利厚生
- ・業務負荷に関する項目:業務量、労働時間、ワークライフバランス、業務へのストレス
- ・総合的な項目:全体の満足度、今後の定着意向、企業への愛着

※本年度は基礎指数把握に留める。

令和2年度の輸送品目別取組強化事業について

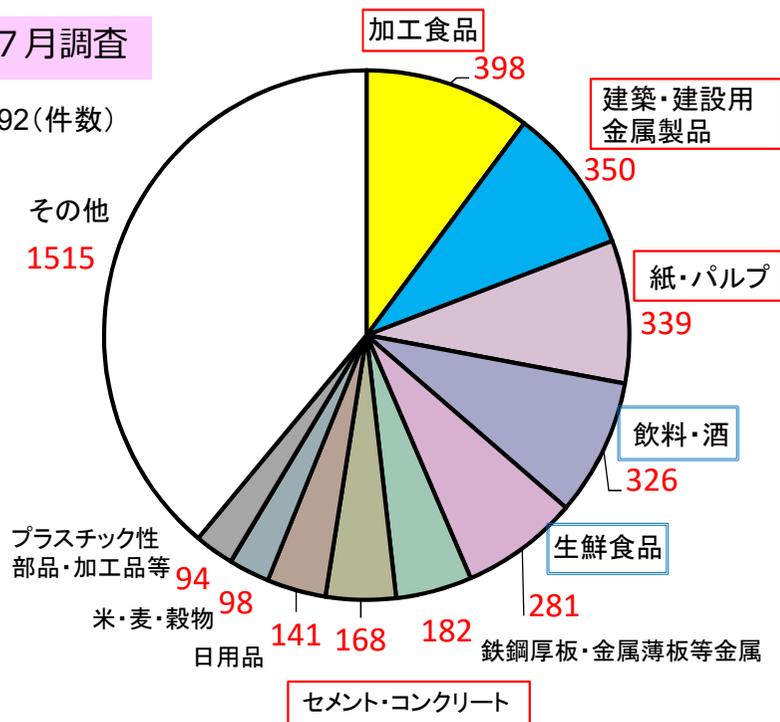
- 平成29年7月に実施した荷待ち時間実態調査において、30分以上の荷待ち時間が生じた件数が多い品目（加工食品、建設資材、紙・パルプ）について懇談会を立ち上げて、課題整理や改善策について検討を行い、その結果を踏まえて品目ごとのガイドラインを策定（令和2年5月公表）。
- 加工食品、建設資材、紙・パルプの各品目については、ガイドラインにおいて示した今後の取組の方向性に沿って、引き続き課題解決のための方策について検討・検証を実施する。
- また、平成29年7月及び平成30年11月に実施した荷待ち時間の実態調査において、荷待ち時間が生じた件数が多かった「生鮮食品」及び「飲料、酒」について、課題整理や改善策の検討を実施する。

30分以上の荷待ち時間が生じた件数（輸送品目別）

は、既に懇談会を設置している品目
 は、今後懇談会設置を検討する品目

平成29年7月調査

N=3,892(件数)



平成30年11月調査

N=4,387(件数)

